

議論は私達のエネルギー

野辺山サイエンスワークショップ 令和元年

若手研究者達が企画した研究会だよ。最近の若者もなかなかやるね！



休憩中の雑談も研究の話が中心。



研究成果をまとめたポスターの前で意見を交わす研究者たち。

なんだか、楽しそうですね

議論によって深まる理解

研究者にとって、研究成果を社会に還元するのは重要な仕事のひとつです。より質の高いものを世に出すためには、自身の研究結果について他の研究者と意見を交わすことや、他の研究者の成果を知り最新の情報に触れる事はとても大切です。そのため国内外を問わず様々な研究会が催され、研究者たちは自身の研究を深めるために出かけて行きます。

気軽にサイエンスを話し合う場がほしい！

野辺山観測所でもこれまで、45m望遠鏡を使う人たちのための研究会を年に1度行っていました。電波天文学といっても研究の対象やテーマにより様々な分野に分かれ、研究会も分野ごとに行うことが多いのですが、野辺山の研究会は様々な分野の研究者が一堂に会し、学生も参加しやすい研究会として貴重な議論の場を提供していました。しかし、運営体制の変化によりこの研究会は天文台三鷹での研究会に統合され、野辺山では行われなくなりました。一方で近年の観測装置の大型化やプロジェクトの国際化により、プロジェクトの管理、運営が研究会での主要な議題となったり、発表を英語のみで行うことになったり、研究を始めたばかりの学生や若手研究者には少々ハードルが高く、日本語で気軽に、また、科学的考察について深いところまでの議論ができる場が望まれていました。

あーでもない、こーでもない、は至福の時間

このような状況の中、若い世代の登竜門として気軽に参加でき、未来の電波天文学の可能性を探るような研究会をやろう！と、野辺山の若手研究者達により9/4~9/6の3日間、野辺山でワークショップが開催されました。星の誕生に関する研究、銀河の研究、ブラックホールの研究、装置開発など色々な分野から約70人が参加。若い世代だけでなく、第一線で活躍しているベテラン研究者、多くの研究者を育てた大御所の先生など、幅広い世代が参加した、とても活気のある研究会になりました。10分~20分程度の講演やポスターで研究成果が紹介され、質問や意見が交わされます。休憩中にも、あちこちに人の輪ができ、あーでもない、こーでもない、と、尽きる事のない議論が続きます。研究の話をするときの研究者は本当に楽しそうにキラキラ輝いています。人は好きな事を話す時、こんなにも輝くんですね。

研究会に欠かせない物

研究会に欠かせない物、それは休憩中の飲み物とお菓子。研究者には甘いものが好きな人が多いんです。やはり脳を動かす燃料は糖分、ですか?!

ぼくも、チョコ大好き

わたしは和菓子かな

野辺山がもつ求心力

これまで野辺山観測所は電波天文学では日本初となる大型装置を有する観測所として大勢の学生や研究者を育ててきました。目の前で望遠鏡を操作できて、装置全体の仕組みを自分の目で見る事ができる野辺山観測所は、研究だけでなく、教育や人材育成の面でも多大な貢献をしてきたのです。そのような環境での研究会は自然と会話も弾みます。ワークショップの最後には、また、野辺山で、と今後の開催を望む声がたくさん聞かれました。

